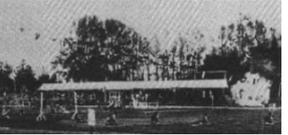


| 年月日 | 中学校 歴史年表 |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1882年明治15年5月 | 西蒲原郡町村連合会において郡立中学校の設立を決議する。 |
| 1882年明治15年9月 | 郡立中学校の設立認可される。巻町専福寺内に開校する。校長 朝妻国輔。 |
| 1884年明治17年5月 | 西蒲原郡弥彦村に校舎を新設する。 |
| 1885年明治18年9月 | 私立明訓学校と合併して県立明訓学校となる。 |
| 1885年明治18年10月 | 文部大臣森有礼、同省輔野村綱臨席のもとに開校式を挙げる。校長 大橋一蔵。 |
| 1888年明治21年 | 新潟県立明訓学校廃校となる。 |
| 1903年明治36年1月8日 | 西蒲原郡議会は全会一致で中学校設置の請願を決議し、郡選出の県会議員を通じて件の当局、県会に請願する。県立明訓学校が廃校となってから十数年を経た明治35年頃より、郡内有識者の間に中学校設立の必要を説く声再び起こって来ていた。 |
| 1906年明治39年2月 | 県会において中学校創立のための予算案が可決される。 |
| 1906年明治39年6月23日 | 新潟県立新潟中学校巻分校 を西蒲原郡巻町に設置し、明治40年4月より開校することが認可される。 |
| 1906年明治39年10月1日 | 校舎新築工事に着工する。 |
| 1907年明治40年3月6日 | 新潟県立新潟中学校巻分校を 新潟県立巻中学校 と改称の上、四月より開校することが認可される。 |
| 3月11日 | 茨城県立下妻中学校教諭黒金泰信初代校長となる。 |
| 4月27日 | 第一回入学式 を挙げる。  正門（創立当時） |
| 5月1日 | 授業を開始する。この日をもって創立記念日と定める。 校地六千坪、校舎四百三十四坪は西蒲原郡よりの寄付である。 |
| 7日 | 寄宿舎を建設する。 |
| 9日 | 生徒服を制定する。 |
| 1908年明治41年4月 | 訓育綱領「勤労・廉直・恭敬」を制定する職員小和田性徳起草、金子由蔵書写して第二回生の入学式に発表する。 |
| 10月13日 | 教育勅語、戊申詔書を受ける。 |
| 1909年明治42年5月1日 | 創立記念式、校風式を挙げる。 |
| 10月11日 | 初代校長黒金泰信病気のため休職となる。 |
| 11月8日 | 伊藤郁太郎代に校長となる。 |
| 12月13日 | 増築校舎一棟、渡り廊下二カ所を引き継ぐ。 |
| 1911年明治44年1月28日 | 内野村方面において初の発火演習を行う。以後年中行事となる。 |
| 5月22日 | 四、五年生東京方面に修学旅行を行う。以後年中行事となる。 |
| 6月30日 | 明治天皇、皇后のお写真をうける。 |
| 12月24日 | 土地二千四百三十四坪、校舎の一部増築分、銃器室一棟、物置その他を引き継ぐ。 |
| 1912年大正元年3月25日 | 第一回卒業式を挙げる。卒業生三十二名。 このころ、同窓会「国土会」創設の気運おこる。 |
| 10月11日 | 竹内雄之介第三代校長となる。 |
| 11月 | 県当局財政緊縮のため本校他二校廃校の方針を発表する。これに対し地元では熱心に存続運動を展開した。しかし十二月に県会が終って廃校が決定的となるや、西蒲原郡会は郡立中学校として存続することを決議した。 |
| 1913年大正2年3月 | 県当局は廃校を取り止め、当分の間郡立とする方針に変える。  第2回卒業生 |
| 4月1日 | 新潟県立巻中学校を西蒲原郡立巻中学校と改称することが認可される。 |
| 4月8日 | このころ、応募生徒数少なく、ようやく所要生徒数に達する程度という状態で、 郡内小学校を歴訪して応募者の増加を懇請する有様であった。 徴兵令第十三条により生徒の徴兵延期が認可される。 |
| 1914年大正3年3月21日 | 西蒲原郡巻中学校を大正三年三月二十五日以降新潟県立とし、新潟県立巻中学校と改称することが認可される。 郡当局、郡選出県会議員等の奔走によって県立中学校に復帰することができ、郡立中学校としての卒業生を出さずにすむ。 |
| 4月 | 前年越後線が開通し、入学志願者漸増の傾向が見える。この年の受験者百一名、入学者四十一名を数える。 |
| 7月2日 | 校地二千五百一坪を拡張する。 |
| 9月 | 校旗を制定し、樹立式を行う。 |
| 10月27日 | 大正天皇のお写真をうける。 |
| 1916年大正5年11月 | 立太子礼記念として土地を購入する。 |
| 1917年大正6年4月 | 十学級編成の予定でこの年より向う五力年間一学級ずつ増加募集することにし、二学級募集する。この年の入学者九十四名。農業科を加設する。 |
| 5月1日 | 創立十周年記念式を挙げる。 |
| 5月31日 | 松木徳聚第四代校長となる。 |
| 1918年大正7年3月31日 | 寄宿舎を廃止する。 |

| | |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月 | 在校生父兄の寄付により御真影奉安所を新設する。 武道に新たに柔道を仮設する。一、二年生に体操科の時間を増す。 |
| 11月8日 | 十二日まで五日間臨時休校する。悪性流行性感冒まん延のためで、欠席者は生徒の三割余に達する。 |
| 1919年大正8年11月 | 物理化学実験室を新築する。 |
| 1920年大正9年7月15日 | 矢浪淑次郎第五代校長となる。 |
| 12月 | 雨天体操場増築、御真影奉安所および銃器室を移転する。 |
| 1921年大正10年9月15日 | 藤田良平第六代校長となる。 |
| 9月 | 寄宿舎二階建て一棟、舎監室、同事務室、病棟一棟増築、食堂を拡張する。 一時廃止した寄宿舎をこのころ再開した。 |
| 1922年大正11年4月 | 15学級編成の予定で向こう五カ年間一学級ずつ増募することにし、三学級募集する。入学者百三十一名。 |
| 9月 | 校歌を制定する。 第九回卒業生の寄贈による。 |
| 1923年大正12年3月 | 農業科を廃止する。 |
| 8月 | 校舎二階建て一棟を増築する。  剣道部（第13回生・大正13年） |
| 1925年大正14年2月18日 | 広瀬 果第七代校長となる。 |
| 3月26日 | 御真影奉蔵所を新設する。校友会の寄付による。 |
| 4月 | 初めて配属将校陸軍歩兵大尉飯田七郎が着任し、本格的軍事教練始まる。 |
| 1926年大正15年5月1日 | 創立二十周年記念事業の一つとして行われた運動場の拡張改修工事が完成し、竣工式を行う。 創立二十周年記念式を挙行する。あわせて永年勤続者表彰式、記念祝賀会、記念展覧会を行う。 |
| 10月1日 |  職員生徒全校記念撮影 |
| 2日 | 校友会物故者追悼祭を行う。 |
| 9日 | 記念大運動会を開催する。 その他の記念事業は、ラジオ設備、記念誌発行等である。 |
| 10月 | 校舎平屋建一棟増築する。 |
| 1927年昭和2年5月31日 | 内山静一第八代校長となる。 |
| 1928年昭和3年3月9日 | 本田石介第九代校長となる。 |
| | 武道場を新築する。創立以来増築を重ねてきた校舎は一応完成の域に達する。校地八千五百坪、校舎一千六百六十五坪である。 |
| 1929年昭和4年 |  柔道部・第18回生（昭和4年） |
| 1930年昭和5年3月31日 | 山田寅之助第十代校長となる。 |
| 1931年昭和6年4月 | 募集一学級減となり、昭和八年度より十学級編成となる。 この年の入学許可者は九十三名である。 |
| 1932年昭和7年3月31日 | 寄宿舎を廃止する。 粟野信一第十一代校長となる。  運動会発火演習（第21回生） |
| 11月 | 水道敷設完成する。 |
| 1933年昭和8年3月31日 | 秋野亀太郎第十二代校長となる。 |
| 1934年昭和9年3月 | 寄宿舎一部払い下げ取り壊す。 |
| 11月17日 | 群馬県高崎市で御親閲があり教諭二名生徒二十三名参加する。 |
| 1935年昭和10年 |     本町通り 水道タンク 駅前通 校舎前庭での教練（第24回生） |
| 1936年昭和11年9月19日 | 創立三十周年大運動会を開催する。 |

| | |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 30日 | <p>初代校長黒金泰信記念碑除幕式を行う。 第三回までの卒業生の発起により、創立三十周年を記念して建立される。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> 除幕式 初代校長黒金泰信記念碑 </p> |
| 10月1日 | <p>創立三十周年記念式典を挙げる。参列者四百五十名を数え、空前の盛事であった。夕刻より職員、生徒による提灯行列を行い、楽隊を先頭に祝歌を高唱して町内を回った。記念講演会を行う。講師広瀬孝六郎、樋浦誠。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> 三十周年記念 蛍雪橋（昭和11年竣工） 県陸上優勝 弥彦行軍 </p> |
| 1938年昭和13年 | この年より宿泊を要する修学旅行は、日華事変のため中止となる。 |
| 1939年昭和14年4月 | この年より一学級増の三学級募集となる。入学者六十二名。 |
| 1941年昭和16年3月31日 | 小和田毅夫第十三代校長となる。 |
| 4月 | 学徒報国団を結成する。 |
| 1942年昭和17年 | 太平洋戦争激化にともない戦時色濃厚となり、しばしば夜間行軍、耐寒行軍や防空演習を行う。 |
| 1943年昭和18年4月2日 | 大島順一第十四代校長となる。 |
| 4月 | 太平洋戦争敗色濃くなり、本格的勤労動員始まる。石炭荷揚げ、飛行場整地のため新潟に勤労動員、食糧増産に動員。 |
| 8月 | 夏期休暇を原則として廃止し、修練等の授業に当てる。四、五年生二百四十名が、三菱重工業株式会社名古屋発動機製作所に通年動員される。 |
| 9月 | 三年生が小野鉄工所、石井精密工業株式会社新潟工場に動員される。 |
| 1944年昭和19年4月 | 太平洋戦争敗色濃くなり、本格的勤労動員始まる。石炭荷揚げ、飛行場整地のため新潟に勤労動員、食糧増産に動員。 |
| 8月 | 夏期休暇を原則として廃止し、修練等の授業に当てる。四、五年生二百四十名が、三菱重工業株式会社名古屋発動機製作所に通年動員される。 |
| 9月 | 第十四代校長大島順一病気のため死去する。 |
| 9月 |  <p style="text-align: center;">戦時学徒動員</p> |
| 1945年昭和20年1月22日 | 第十四代校長大島順一病気のため死去する。 |
| 3月2日 | 吉田正元第十五代校長となる。卒業式を動員先の工場で行う。 |
| 1945年昭和20年1月22日 | 第十四代校長大島順一病気のため死去する。 |
| 3月2日 | 吉田正元第十五代校長となる。卒業式を動員先の工場で行う。 |
| 4月 | 三年生島本鉄工所内野工場、燕武田工業株式会社へ通年動員される。 |
| 8月15日 | 敗戦となり、勤労動員中の職員生徒学校に復帰する。 |
| 10月 | 占領軍の指令により、翌年にかけて軍国主義的、国家主義的色彩を一掃するための措置が次々とられる。この月、学校所有の兵器類を警察に提出し、軍国色彩のある教具を払い下げ、または燃却する。 |
| 12月 | 修身、国史、地理の授業を停止する。翌年七月、軍事色を一掃するため、体育における秩序運動として必要な号令、指示の反復訓練、隊列行進等が禁止となる。 |
| 12月12日 | 翌年一月三十一日まで五十日間臨時休校する。運輸事情悪化により学生定期乗車券の使用が禁止されたためである。 |
| 1946年昭和21年2月20日 | 中学校の修業年限五年となる。戦時中四年に短縮されていた。 |
| 8月 | 地理授業の再開が認められる。続いて十一月に日本史の再開が認められる。 |
| 11月1日 | 創立四十周年記念式を挙げる。 |
| 1947年昭和22年1月 | 一月十三日から、一月三十一日まで、隔日授業を行う。運輸事情の悪化により、学生定期乗車券が隔日使用となったためである。 |
| 4月1日 | <p>学制改革により、併設中学校を設置する。この年生徒会の活動が始まる。</p>  |